
モンスターハンター ~異世界から来た太陽~

Mt.KOBURA

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター　～異世界から来た太陽～

【Zコード】

N9619Y

【作者名】

Mt · KOBURA

【あらすじ】

成績優秀、運動神経抜群の主人公が仲間と一緒に狩りまくるほのぼの?ストーリーです!

第1話・嵐の前の静けさ（前書き）

「んばんはーー！」

夜だけど、初投稿でテンション上がりまくり のKOBURA です！

今日が初投稿ですので駄文、文法が成り立っていないのであらかじめご了承ください

それでは、記念すべき第1話
始まり始まり～！

第1話・嵐の前の静けさ

H e l l o ! ! 僕は七海紅葉 ! ! キラツキラの中学生だ !

……はあ～、たりい～

このテンションマジできつい…

分かる？俺超燃え尽きてんの。

だって、朝からこのテンションいつて…

でも、一つだけ熱心に取り組めるゲームがあるんだーー！

その名を“モンスターハンターポータブル”

俺がこれまで、やつてきたゲームの中でも特に面白いーーって俺が
絶賛するくらい面白いーー！！

？？？「おーい、紅葉～！」

ちなみに今の声は俺の幼なじみでありながら、
モンハン仲間もある“赤羽 芙”だ。

芙「紅葉！私やつとジンオウガ倒せたよーー！」

……朝からうるせえ～～～（怒）

ちなみに今、会話にてたジンオウガってのは
モンハンに出でぐる4足歩行で電気を操るモンスターね（誰に説明

してんだ？俺！？）

……つーかジンオウガなんてとっくに倒してるし…

芙「ねえ、紅葉、聞いてる！？」

紅葉「ああ、聞いてる聞いてる？」

芙「何それは「おーい、おつふた～りそ～ん！」ん？あつーー良と
蓮」

今、会話にてた良と蓮も俺の幼なじみでモンハン仲間。

「ねえねえ、聞いてーー！私やつとジンオウガ倒せたよーー！」

良「おお、よかつたじゃん！ーー！」

蓮「…遅くね？」

栄「むーー！ しょうがないじゃんー。もともとある
いうゲーム苦手だしー！」

紅葉「…苦手ならやんなよ……」

栄「えーー！ だつて、みんなと話が合わないの
嫌だし」

面倒くさい性格…

良「なーなー、そんなことよりさ、歩きながら
でいいから、モンハンやひりひりー！」

栄「あー私もー！ 私もー！」

蓮「俺もー！」

良「紅葉は？」

紅葉「やる…。」

「うして俺たちは学校に行くまでモンハンをやることになつたんだ
けど……まさかあんなことになるとは今の俺たちじや予想すらつか
なかつた……」

第一話・嵐の前の静けさ（後書き）

「ううじょいかー!?

」感想などお待ちしております。

第2話・謎の黒い穴（前書き）

こんばんは～
テンション高いいつも2話目投稿で～す。

まあ、こんなにテンションが高いのは、今日でテストが終了だから
(こんなときに勉強せずに執筆している私はダメ人間　テヘッ)

まあ、テストの話はこんくらいにして
それでは第2話　「謎の黒い穴」
始まり始まり～

第2話・謎の黒い穴

みんなで歩いて10分 やつと学校が見えてきた
グレーの校舎 校庭には朝練が終わって燃え尽きている生徒たち
あれが俺たちの通っている私立名秋学園（ちなみに県内で一番頭の
いい学校だつて 自慢じやねえぞ^ ^）

さて、おそらく校門には…いた 源田だ…

あつ、源田つていうのは、生徒指導の先生で
名秋学園では生徒に一番嫌われている先生ね
(最近俺、誰に説明してんだ?)

紅葉「おい、お前ら 源田がいるから、そろそろ…」
俺が言いかけた瞬間、キイイーンと耳鳴りのような音が聞こえて
きた。

紅葉「なんだこの音?耳鳴り?」

良「紅葉、お前も聞こえんのか?」

紅葉「え!?お前も!?」

蓮「俺も聞こえるぞ」

栞「私も」

紅葉「周りの様子を見る限り、耳鳴りは俺たちだけみたいだな。」

良「ああ。でも、なんで…?」

良が言い終わった瞬間、耳鳴りが急に止まつた…

蓮「あれ?止ま…」

その時、突然ギュオオオオオオと変な音がなつた。

良「な、なんだこりや!?」

紅葉「(一体、どうなつてやがる…?)」

容器を潰したような音が聞こえた瞬間、校門に突然黒い穴が出現した。

良「うわっ！！」

蓮「なんだ、ありや！？」

栄「ど、どうなつてんの！？」

紅葉「周りの奴等は気づいてねえみたいだな……」

紅葉が言い終えたあと、突然4人の身体が光始めた

良「なつ！？」

蓮「う、うわ！？」

栄「きやあ！！なにこれ！？」

紅葉「まだ、誰も気づかねえのか！？」

そう、まだ誰も紅葉たちの異変には気づいていない。

その時、4人の身体が一際強い光を発した瞬間、突然4人の姿が消えてしまった。

しかし、そのことに気づくものは、誰一人としていなかつた……。

第2話・謎の黒い穴（後書き）

どうでしたか？

感想などよろしくお願いします。

第3話・ジャギイの群れとドスジャギイー！？（前書き）

こんにちは～

テストが、終わってウキウキルンルンの
Mt・KOBURAですーー！

いや～、テストって嫌ですよね～。

今年は高校受験なんで勉強やうつとは思つてんのですけじね～。
中々、上手くいきません

さて、それでは第3話「ジャギイの群れとドスジャギイー！？」
始まり始まり～

第3話・ジャギイの群れとアスジャギイ！？

? ? ? side

来たか

……

そのようだ…

さて、次の太陽はどれほど輝くものか…

楽しみですね…

? ? ? side

うん？こりはぢーだ…？

? ? ? 「…いつ、起き…」

だ、誰だ…？

? ? ? 「…いつ、起きろーー！」

……ちつーつるせえなあーー！

? ? ? 「おい、起き…ゲフッ！ー！」

良side

俺が目を開けた時、目の前に広がった光景はなんとも言い難い光景だった。

良「な、なんだ…」？」？

目の前に広がるのは新緑の森、悠久の崖、小鳥のさえずり、遠くから聞こえる何かの咆哮

良「ど、どうなつてんだ！？」

確かにさつきは、学校の通学路で4人とモンハンしながら、歩いてた筈…！？

良「そ、そうだ！！みんなは！？」

周りを見ると、3人ともすぐ近くにいた よかつた…

良「おいつ！？みんな大丈夫か！？」

紅葉「うう…」

良「紅葉！？おいつ！！大丈夫か！？」

紅葉「うう…うう…？」

良「おいつ！！起きろ…！」

良「おいつ！！起き「うるせえなあ…！」ゲフッ…！」

えつ！？なんで！？なんで殴られんの…？つーか、顔！？しかもグーパン！？

紅葉「つ…なんだよ、耳元で怒鳴りやがって…」

良「いや、俺は起こううと…」

蓮「うう…」

栞「う…ここは…？」

良「おおつ、二人とも気がつ「うつせえ…！」…」

なあ、俺キレイいいよな いいよね だって、俺だけおかしい
じやん（涙）

紅葉「ん？何泣いてんの？」

良「うつせえ…！」うう

なんで、俺だけ… あつ、でもさすがの紅葉も心配ぐらいで…

紅葉「んなことより、ここ何処だ？」

うん、軽く受け流されたね…

栄「あれ、さつきまでゲームやつてたのに…」

蓮「つーか、バッグとかみんな無くなつてね?」

栄「あつ！ほんとだ！」

紅葉「まあ、んなもんどうでもいい んなことより、ijiは一体ど

こだつつー話だ」

良「少なくとも、日本じゃねーよな」

栄「うん…うちの近くにもこんなところによ」

紅葉「やっぱ、さつきの黒い穴が原因か…」

蓮「つーか、このまま、帰れんかつたら、どうしよう…」

さすが、蓮だな 意味わかんないことに来ても全く動じてない

栄「もー、そんなこといわないで…！」

蓮「あー、悪い、悪い…」

紅葉「さて、それにしても…？」

良「どうした？ 紅葉？」

紅葉「…歩くぞ…」

良「はあ？どうしてまた急に…」

紅葉「雨が降る」

栄「えつ…？ ほんと…？」

紅葉「ああ…西の方角に雨雲が見える…」

そんなの、全然見えないんですけど…

「まあ、あと1時間くらいで降るからそれまでに人のいるところを見つけるか、洞窟でも探す…」

良「？どうした？」

紅葉「なんか、足音が聞こえる…」

栄「えつ？ そんなの聞こえないけど…」

紅葉「シッ…」

紅葉が人差し指を口の前にやる…

紅葉「ん？」

蓮「なんか、分かったの？」

紅葉「ああ、この足音は…人間じゃない？」

栂「えつ！？」

紅葉「なにか、一足歩行の生き物が50匹くらいしかも、かなり大きい…」

良「はあ？なんだよそれ？」

栂「ね、ねえ…！…あれ…！」

栂が指を指したところを見ると確かに一足歩行で薄い紫の蜥蜴のような生き物が崖を上っているのが見えた

良「な、なんだ…？ありや…？」

蓮「これって……やばくね？」

栂「に、逃げようよ…」

紅葉「駄目だ！あれじゃすぐに追い付かれる」

栂「じゃあ、どうすれば？」

紅葉「…俺が…囮になる」

栂「な、何言つてんの！？」

良「正気か…！」

紅葉「俺は、至つて、正気だ…それに、ここで4人とも全滅するより、一人が囮になつて、残つた奴等がこの先にある村かどこかで、このことを知れば、最終的に被害は少なくなる…」

良「だからって、お前が犠牲になることなんか…！」

栂「そうだよ…！一緒に逃げよう…！」

しかし、紅葉は崖下にいる蜥蜴から、田を離そうともしなかつた

蓮「…任せて、いいんだな？」

栂「蓮！？」

紅葉「…ああ」

蓮「…分かった…」

良「おい蓮…！お前、仲間を見捨てんのか…！」

良が蓮の胸ぐらをつかむ

蓮「紅葉は間違つたことは言つてないし、おれらへ紅葉なら、あの

程度なら…」

良「？あの程度？ビリビリ」とだ！？」

蓮「……」

紅葉「いいから！」

紅葉が声を荒げて言ひ

紅葉「ここは、俺に任せろ……」

良「！？……つ……」

栄「紅葉……」

蓮「……」

良「つ……くそ……必ず追い付けよ……」

栄「紅葉！あんなのに負けないでね」

蓮「任せたぞ～」

みんな、紅葉の意見に納得したようだ

紅葉「ああ！！必ず追い付く！！」

紅葉が、言い終わって安堵したのか、みんな、一斉に蜥蜴が走つて
いる道とは、反対の方向を駆ける

紅葉「…行つたか…………さて、そろそろご到着かな…………」

紅葉のいつた通り、紅葉の後ろには大勢の蜥蜴がいた

紅葉「ふつ！久しぶりの実戦か！前の実戦からは6年振り 腕が鈍
つていなければいいが…」

紅葉が、言い終わった瞬間、群れの中でも一際大きい蜥蜴が突然鳴
きだした

どうやら、紅葉を敵と判断したようだ

紅葉「ふつ！その程度の殺氣か 他愛もない」

蜥蜴「ギヤオツオウオ

紅葉「さあ、行くぞ！！」

紅葉と蜥蜴が動きだした

しかし、その間に入る影

？？？「ふふ 少しは楽しませてくれるかな

チヤキッと刀を抜く音が聞こえた…

第3話・ジャギーの群れとデスマジヤギー！？（後書き）

はい、第3話終了でーす

あつ、もうひん紅葉はまだ死にませんよ！

てこづか、ここで死んだらこの話もついでわざわざ

あつ、それと次回からなにかキャラクターのプロフィール載せて
いきますんでそこそこよろしくです。

では、感想など、お待ちしております

第4話・竜人族の少女（前書き）

こんちはー

M t · K O B U R A です！！

いやー、一日に2回投稿つてきついっすねー！

でも、まあ、、基本的に僕は暇人なので、
こんなことは、しそつちゅうあるんで
よろしくでーす

それでは、第4話「竜人族の少女」
始まり始まり～

第4話・竜人族の少女

? ? ? side

崖下を見てみると、4人の子供が、なんか動揺?つていうか、困惑した表情をしている。

うん！今のあたしなら、多分顔見られずにあの子たちを殺れるね

ん？あの子たちのさらに崖下に…ハハーン
この気配はジャギイの群れとドスジャギイか
こりや、間違いなくあの子たち、食い殺されるね

でも、あの赤髪の少年は、とっくに氣づいてるな……一時間後、雨が降ることもね

おっ 来た来た 紫蜥蜴 ん？ふーん、あの赤髪の子、殿務めるんだ…それに、結構殺氣出てるね なんか、気持ちよくなつてきちゃった

ふふ ちょっと、興味出てきた

紅葉 side

まずは、3体小さいのが、出てきた…殺氣をぶつけてみたが、怯んでもすぐに向かってきた。

おそらく、あの一際でかいのが、親玉…んで、そいつが指令を出してるのか…どおりで、妙に統率が取れているのか…だが…

スパアーンッ！！

俺の周りを、間合いを取るかのようにぐるぐる回っている蜥蜴を手刀で頸動脈を切る
それだけで、一匹の雑兵の命を刈り取った…

「ギャオツー？」

それだけで親玉は、驚いている……」の程度で驚くのでは……お前
は首領失格だ！！

? ? ? side

うそつ！？まさか、武器を使わずにジャギイを倒すなんて……いくら、
ジャギイが小型モンスターでも、手だけで、倒すのはかなりきつい
し…

ふーん、これはかなり興味出てきたよ…
でもまだ、余裕そだから、もつ少し見てるかな

紅葉 side

ハアハアツ、クソ！…まだいるのか…

現在、俺の周囲には20匹くらいの小蜥蜴が息絶えている。
だが、これだけ倒しても、まだ半数の小蜥蜴と、首領が、残つてい
る。

それに、もうひとつ厄介なことがある。

それは、一撃で殺せなくなつたことだ…

さつきから、的確に頸動脈を狙えなくなってきた。もちろん俺の疲労が原因もあるが、もつひとつ俺が頸動脈を狙えない原因があった奴等が、攻撃の瞬間に身体をずらしていくのだ…

俺の推測だが、あの首領が俺の攻撃パターンを記憶して、それを雑兵に伝えているのだ

それを聞いた雑兵どもは、俺が攻撃する瞬間に、身体を数mmずらして急所をずらす

クソ！敵ながらなかなか天晴れなことだ…

そんなことを考えながら、戦っていると、当然小蜥蜴以外に注意がいかない

俺は、小蜥蜴の攻撃をかわす際、小石のつまづいて、転んでしまった

紅葉「しまつ…！？」

俺が転んだのを好機と見たのか、一斉に飛びかかってきた。

クソ！－いくらなんでも、こんな大人の体重とほぼおなじような奴等が一斉に飛びかかってきたら、あつという間に圧死してしまう…！

クつ！－ここまでか…みんな、「ごめん…」

「ふふ 少しは楽しませてくれるかな」

俺が、諦めて目を瞑つたら突然少女の、声と

「ギヤアツ！」

小蜥蜴の断末魔らしき声が聞こえた…

? ? ? side

あつ！やばつ！あの子かなり、疲れてる。

でも手だけで倒した数は23頭か…ふーん、これはかなりすごいね
うん今すぐ目の前にいつて拍手したいくらい、いやマジで！
だって、武器も使わずにジャギイを23頭倒すって人間やめてるで
しょ（笑）

あつーつまづいた。しうがない、やつと私の出番だね！ふふ 興奮してさわやつた

紅葉 side

いきなり、俺の前に現れて小蜥蜴を切り伏せた女、一体何者だ？
しかし、よく見てみると見た目が俺らと何かが違う！

まず耳が尖ってる つーか、これってモンハンにもあつたんだけ
ど……えつー？じつてまさかモンハンの世界！？じゃあ、さつき
のはモンスター！？でも、俺は、見たこと…あれっ…あ————
！…分かつた！…これ、ジャギイか！？つーか、俺目悪いから全く
わからんかった

。だってさ、こっちの世界に来たら眼鏡もなくなつてんだもん！！
マジでアリエンティ

えつー？じゃあ、どうして、女の耳が尖ってるつて分かつたつて？

予備の眼鏡が尻ポケットにあつたんだよ！集中しすぎて氣づかんか
つた。 でも、この世界に来たときは、そんなもんなかつたと思
うが…まつ、いいか。

にしても、耳が尖ってるつてことは、この女竜人族か？

？？？「ねえ、大丈夫？」

紅葉「ん？ああ、大丈…」

立とうとした瞬間立ちくらみが起こつた

どうやら、想像以上に身体を酷使してしまったようだ…

? ? ? 「ちょっと！全然大丈夫じゃないじゃん！！…いいよ。私が

あいつら殺るから」

? ? ? なんか今、あじけない顔の少女の口から“殺る”とか、聞こえてきたんですけど…

でも、竜人族だから、おそらく～300年は優に生きている筈だけど…

でも、

? ? ? 「とりあえず、君は座つてなよ あいつらなんて余裕で倒せるから」

何故か、この少女からでる言葉は信頼出来るものの声だった…

紅葉「（俺つて、初めてあつた奴は、基本的に欠片ほどの信頼もないんだけどね…、でも、まつ、いつか）」

そんなことを考えていると女は、背中に背負っている刀？いや、この世界じゃ、太刀か？を抜いていた

紅葉「（あの、刀は夜刀【月影】…へえー、なかなかできるんだな）

「

? ? ? 「さて、始めるか」

女は楽しそうな、今から、お遊びでも、するかのよつた声ではつきり言つた

? ? ? 「殺し合い」を

宴が始まった瞬間だった…

第4話：竜人族の少女（後書き）

登場人物紹介 Fille

名前：七海 紅葉

年齢：15歳

血液型：B型

誕生日：2月11日

身長：174cm

体重：65kg

私立名秋学園3年生 成績優秀、運動神経抜群だが、面倒くさがり屋のため、必要以上に友達は作らない。しかし、顔は結構イケメンなので七海紅葉ファンクラブがある。髪の色は赤。視力は右が0・1 左が0・03なのでかなり度の強い眼鏡をかけている。

殺氣を感じとるところができるほか、ジャギイを素手で倒したその実力から、過去に何かあつた模様…。

赤羽 裕、鳥田 良、村地 蓮とは幼い頃からの幼なじみである。

どうでしょうか？

今回はいつもより（とはいっても、まだ3話しか無いけど）長めに

してみました。

プロフィールに関しては、やっぱ下手くそですね。

紅葉の過去については、番外編で書くか、話の後半で書くかは、今後、考えていきます。

それでは、次回もすぐに投稿すると思いますので、よろしくお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9619y/>

モンスターハンター～異世界から来た太陽～

2011年11月29日21時48分発行